

令和3年
11月26日

病害虫発生予報 12月号

茨城県病害虫防除所

今年の防除日誌を整理・確認して作業内容を振り返り、
来年のよりよい防除につなげましょう！

< 目次 >

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

イチゴ：うどんこ病、ハダニ類	1
促成ピーマン：斑点病、アザミウマ類	2

【その他の病害虫】

促成ピーマン	3
--------	---

【防除所レポート】

令和3年産大豆子実の主要病害虫による被害状況について	4
----------------------------	---

II. 今月の気象予報

最新の農薬登録内容は、農林水産省ホームページの
「農薬登録情報提供システム」(<https://pesticide.maff.go.jp/>)で確認することができます。

詳しくは、病害虫防除所へお問い合わせ下さい。

茨城県病害虫防除所 Tel : 0299-45-8200

予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。

<https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/boujosi dou2/>
フェロモントラップデータ随時更新中



I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

イチゴ

1. うどんこ病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 11月下旬現在、発病葉率（本年値 4.5%、平年値 2.5%）は平年よりやや高く、発生地点率（本年値 20%、平年値 29%）は平年並である。
- ② 11月下旬現在、発病果率（本年値 0.4%、平年値 0.2%）、発生地点率（本年値 22%、平年値 10%）ともに平年よりやや高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発生が多くなると防除が困難になるため、初期防除を徹底する。
- ② 罹病部はできるだけ取り除き、ハウス外に持ち出して適切に処分する。
- ③ 薬剤散布は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、FRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ④ 予防には、硫黄くん煙剤によるくん煙処理が省力的で有効である。
- ⑤ ミツバチや天敵を使用する場合は、薬剤の影響日数等に十分注意する。
- ⑥ 薬剤によっては、果実に汚れが付くものもあるので、十分注意する。

2. ハダニ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 11月下旬現在、寄生葉率（本年値 17.0%、平年値 8.3%）、発生地点率（本年値 70%、平年値 58%）はともに平年よりやや高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① ハダニ類は増殖が速いので、発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ② 薬剤は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、気門封鎖剤以外については、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。なお、薬剤散布は、古い下葉を除去してから行うと効果的である。
- ③ ミツバチや天敵を使用する場合は、薬剤の影響日数等に十分注意する。

促成ピーマン

1. 斑点病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 11月下旬現在、発病度※（本年値 4.0、平年値 1.2）、発生地点率（本年値 50%、平年値 18%）ともに平年よりやや高い。

※発病度：株ごとの発病程度をもとに算出した数値、最小値は 0 で最大値は 100 となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 多湿条件で発生しやすいため、整枝、換気等によりハウス内の湿度を低く保つ。
- ② 発生が多くなると防除が困難になるため、初期防除を徹底する。
- ③ 罹病部はできるだけ取り除き、ハウス外に持ち出して適切に処分する。
- ④ 薬剤散布は、薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、FRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ⑤ 天敵を使用する場合は、薬剤の影響日数等に十分注意する。

2. アザミウマ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 11月下旬現在、寄生花率（本年値 49.0%、平年値 36.3%）は平年よりやや高く、発生地点率（本年値 100%、平年値 85%）は平年並～やや高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① アザミウマ類は増殖が速く、各種ウイルス病を媒介するので発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ② 薬剤散布は、薬液が花や果実にもかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ③ 天敵を使用する場合は、薬剤の影響日数等に十分注意する。なお、天敵と併用して、青色粘着トラップを 10a あたり 200～300 枚設置すると密度低減効果がある。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
促成ピーマン	うどんこ病	発生量：平年並	11月下旬現在、平年並の発生である。
	コナジラミ類	発生量：やや多い	11月下旬現在、平年よりやや多い発生である。

令和3年産大豆子実の主要病害虫による被害状況について

令和3年産大豆子実の主要病害虫による被害状況と防除対策をまとめました。次作に向けた対応の参考にしてください。

[被害状況]

病害では、紫斑病の被害粒率は平年よりやや高く、べと病の被害粒率は平年並～やや高くなりました。本年度は8月上中旬の降水量が平年より多く、病害による被害粒の発生を助長する条件であったと考えられます。

虫害では、吸実性カメムシ類による被害粒率は平年よりやや低く、マメシクイガによる被害粒率は平年より低くなりました。

表 令和3年産大豆子実の主要病害虫による被害状況

病害虫	被害粒率 (%)			発生地点率 (%)		
	本年	平年 ¹⁾	順位 ²⁾	本年	平年 ¹⁾	順位 ²⁾
紫斑病	1.9	1.4	2	85	56	2
べと病	2.6	2.1	4	77	58	5
吸実性カメムシ類	1.7	2.8	9	69	81	9
マメシクイガ	0.7	2.3	11	54	55	7

1) 平年：過去10年間（平成23～令和2年）の値の平均値。ただし、べと病は平成29年を除外した過去10年間（平成22～令和2年）の値の平均値

2) 順位：本年を含む過去11年間における本年値の順位。ただし、べと病は平成29年を除外した本年を含む過去11年間（本年および平成22～令和2年）における本年値の順位

[調査圃場] 県内13地点の大豆圃場（里のほほえみ9圃場、納豆小粒4圃場）

[調査方法] 1圃場あたり10株の上位20莢程度（合計200莢程度）を採取し、子実の被害を目視で調査した。

[採取時期] 令和3年10月第4、5半旬

[防除対策]

<紫斑病>

- ① 茎葉を含む被害残渣は適切に処分し、被害が多発した圃場では連作を避ける。
- ② 種子更新を行う。
- ③ 防除適期は開花期の20日後頃である。開花期から成熟期までに連続した降雨がある場合は、開花期の30日後に追加防除を行う。
- ④ 収穫が遅れると発生が多くなるので、適期に収穫する。

<べと病>

- ① 茎葉を含む被害残渣は適切に処分し、被害が多発した圃場では連作を避ける。
- ② 種子更新を行う。
- ③ 密植を避け、風通しを良くする。
- ④ 防除適期は開花期～子実肥大期である。

<吸実性カメムシ類>

- ① 薬剤防除は莢伸長期以降、発生に応じて7～10日ごとに複数回行う。
- ② 幼虫も子実を加害しながら成長するため、幼虫の発生状況にも注意する。

<マメシクイガ>

- ① 成虫の移動性が低く発生圃場で繁殖・越冬するので、連作を避ける。
- ② 防除適期は産卵最盛期～その約10日後であり、大豆の生育ステージとしては、莢伸長終期～子実肥大初期頃にあたる。

Ⅱ. 今月の気象予報

関東甲信地方1か月予報

(予報期間 11月27日から12月26日)

気象庁(11月25日発表)

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]	要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
	気温	関東甲信全域	40	30	30
	降水量	関東甲信全域	40	40	20
	日照時間	関東甲信全域	20	40	40

[概要]

平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

<1週目の予報> 11月27日(土曜日)から12月3日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率50%

<2週目の予報> 12月4日(土曜日)から12月10日(金曜日)

気温 関東甲信地方 低いまたは平年並の確率40%

<3週目から4週目の予報> 12月11日(土曜日)から12月24日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率40%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬の「ラベル」と登録変更に関する「チラシ」等を必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、作用機構分類(FRACコード、IRACコード)の異なる薬剤を用いてローテーション散布しましょう。
- 5 農薬の使用後は、散布器具やホース内等に薬液が残らないように良く洗浄しましょう。